

伊豆大島における温泉水水質の経時変化*

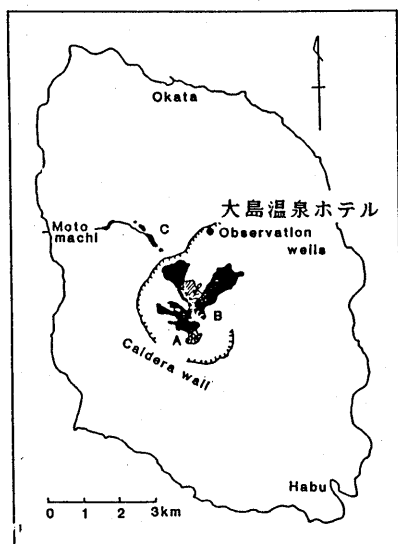
東京大学理学部 地殻化学実験施設

東京大学理学部では、1986年9月以来伊豆大島火山において、中央火口北北東約3kmのカルデラ床に掘削された大島温泉ホテルの2本の源泉を用い観測を継続している。このうち5号井では温泉水水質を観測しており、1987年10月までの結果はすでに報告した¹⁾。本報告では、その後1988年10月までの結果を述べる。第1図に観測点の位置、第2図に1986年9月から1988年10月までの結果をまとめて示す。

主成分のK, Na, Ca, Mgや微量成分のSr, Ba, Mnなど多くの溶存成分は、1986年11月の噴火をはさんで殆ど変化せず、1987年1～5月に増加し一定値を保っていたが、1987年末から減少に転じ、1988年10月では噴火前のレベルにもどっている。また、B, Zn, Cl⁻, SO₄²⁻など異なる経時パターンの溶存成分も噴火前のレベルにもどっている。これらの結果は、1986年に始まる活発な火山活動の影響が低下してきたことを示しているだろう。

参 考 文 献

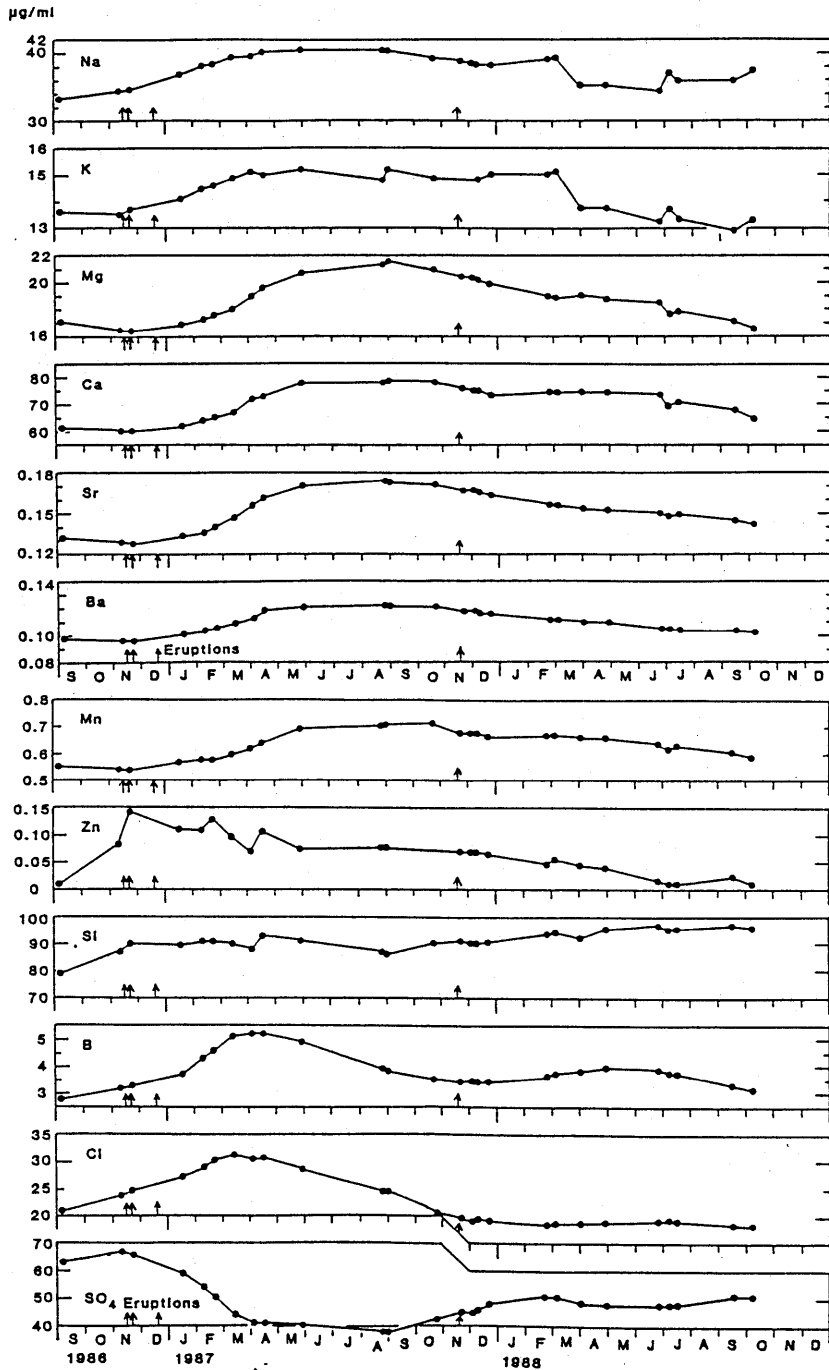
- 1) 東京大学理学部(1988): 伊豆大島火山における地球化学観測, 噴火予知連会報, 40, 67-69。



第1図 観測点(大島温泉ホテル源泉)の位置

Fig.1 Location of the observation site (wells of Oshima Onsen Hotel)。

* Received Dec. 22, 1988



第2図 5号井温泉水中の溶存成分濃度の経年変化

Fig.2 Temporal variations in chemical compositions of hot spring waters collected at No.5 well.